

いろんな発見！楽しい体験！

●●●このノートに書いてね●●●

郷東

鶴市

飯田

弦打全体

名 前



名前を書いて
大事にとっておこう。
そしてまたいつか
弦打をめぐろう。

つるピー
「笑顔」と「ふれあい」が大好きな
弦打地区のキャラクターです。



弦打校区コミュニティ協議会

〒761-8032 香川県高松市鶴市町356-3

TEL.087-882-0285

www.tsuruuchi.net

企画編集 ● ゆめづくり推進事業実行委員会

発行 ● 弦打校区コミュニティ協議会

発行年月日 平成27年3月1日



弦打校区コミュニティ協議会では
弦打地区の代表的な名所「岩田神社」の
孔雀藤の子孫育成に取り組んでいます。

歩こう！訪ねよう！



弦打

T S U R U U C H I

郷東

鶴市

飯田

弦打再発見ノート

藤のまち弦打 今昔めぐり



郷東町 海・山・川に触れる今昔めぐり

A 史跡と埋立地の歴史めぐり… P.03・04・05

B 古墳の山 石清尾山に登ろう… P.06

鶴市町 輝く水と桜のまち今昔めぐり

C 旧丸亀街道と史跡の道めぐり
D 桜の道めぐり … P.07・08・09

E 山の道めぐり

飯田町 孔雀藤と白鳥のまち今昔めぐり

F 弦打のルーツ・日出ずる山 浄願寺山に登ろう… P.10

G 遍路道と史跡めぐり … P.11・12・13

H 岩田神社末社めぐり

全コースをめぐって、弦打博士になろう… P.14

どこから
めぐろう…
三つの町は
楽しさ
いっぱい！



歩こう！訪ねよう！弦打再発見！！



上が北になっています。
地名はこの冊子を
逆にして読んでください。
猫

江戸時代の
弦打地区
高松藩領絵図 香川郡西
(高松市歴史資料館蔵)

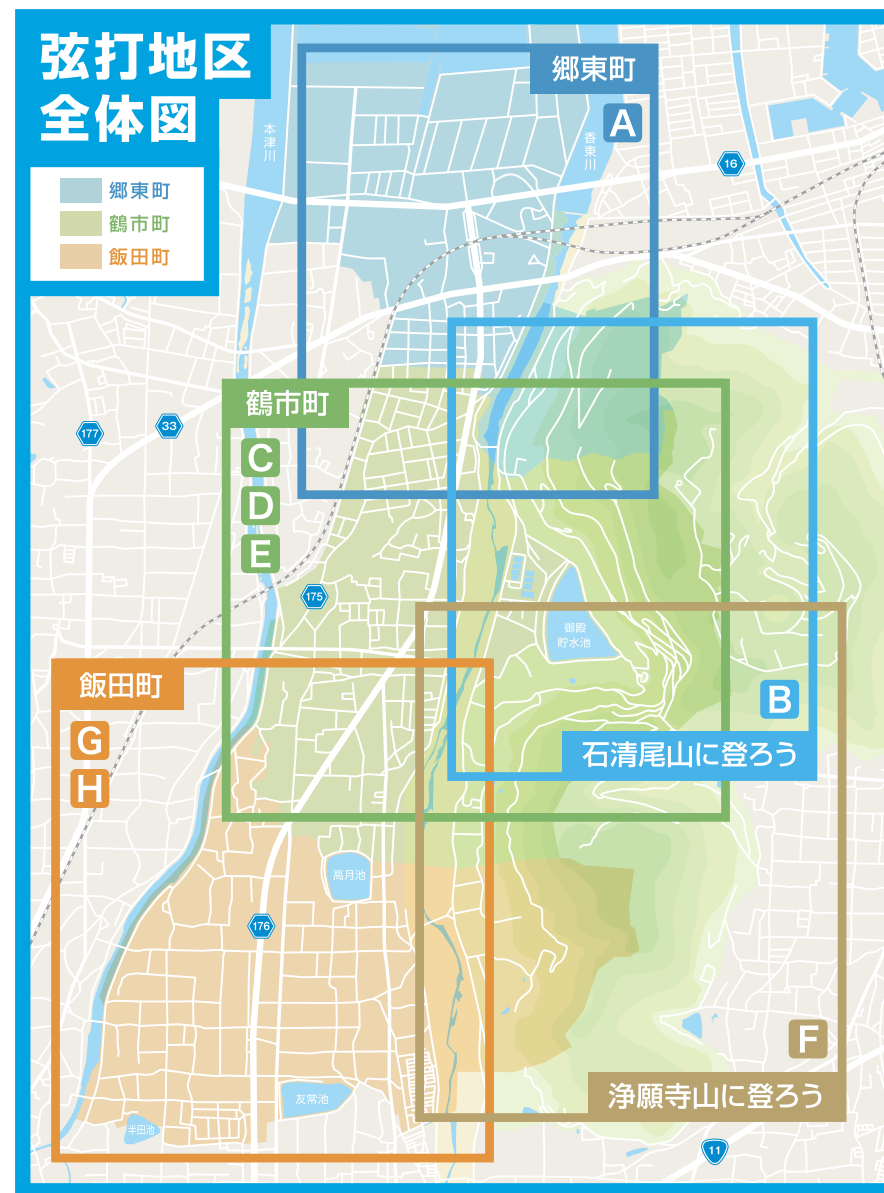
つるうち
弦打地区は東には石清尾山、浄願寺山、西には五色台を望み、その間を香東川、本津川の清流が帯のように流れています。この豊かな自然環境の中でウォーキングしながら弦打地区の今と昔を学べるマップを「弦打再発見ノート」として作成しました。

郷東町、鶴市町、飯田町それぞれについて、古い航空写真(昭和22年の米軍撮影)と現在のマップを対比しながら各ウォーキングルート歩き、地区内の史跡や美しい景観に触れてみませんか。

弦打地区のことを学びながら全ウォーキングコースを制覇することで、弦打博士となり、地区の新たな魅力や良さを発見して、誇りと愛着を持てるまちづくりにつながりましょう。

- 明治23年(1890) ●町村制施行に伴い、香川郡飯田村、鶴市村、郷東村が合併し、香川郡弦打村が発足。
- 大正 9 年(1920) ●人口3,007人
- 昭和15年(1940) ●人口3,148人
- 昭和22年(1947) ●人口4,414人 (3、7、11ページの航空写真の頃)
- 昭和25年(1950) ●人口4,547人
- 昭和31年(1956) ●人口4,550人 916世帯
香川郡弦打村が高松市に合併して高松市弦打地区(郷東町、鶴市町、飯田町)となった。合併時は現在のJA弦打支店の所に役場があった。
- 平成 17 年(2005) ●人口10,401人 4,400世帯
- 平成26年(2014) ●人口10,650人 4,915世帯

弦打地区は郷東町、鶴市町、飯田町の3町からなり、豊かな自然環境に恵まれたまちです。
史跡も多くあるので、ゆっくりと歩きながら地域の歴史と自然に触れましょう。



弦打地区は南北に長いね。



海も山も川もあるよ。



美しい孔雀藤は
弦打地区のシンボルなんだね。



岩田神社にある孔雀藤の子孫育成

香川県自然記念物の指定を受けたこの藤は樹齢800年と言われ、23m×29mの広さにわたりその花房は大きく垂れ下がった見事なもので、「孔雀藤」と称されています。

しかし、近年の樹勢の衰えに危惧し、ゆめづくり推進事業の一環として、平成26年3月に孔雀藤より穂を採取して、挿し木、接ぎ木による子孫育成に取り組んでいます。

平成27年度のゆめづくり推進事業では、地域おこしの一環として地区内のいろいろな所に植樹したり、岩田神社の藤まつりの活性化を図りながら「藤のまち」弦打を目指す計画です。



満開の孔雀藤

子孫育成
の様子





ごとうちょう

郷東町

昭和22年
(1947年)
の郷東町

塩田って何をするとところなの?

*5ページ参照



さめき浜街道や産業道路は
まだできてないんだね。



海の近くに飛行場や
競馬場があったんだ!



石清尾山の上の方まで
畑が広がっているよ!



国土地理院の空中写真(昭和22年米軍撮影)



郷東付近から香西を望んだ写真
(明治末年)

香東川の川市 1960年
四国新聞社提供

香東川河口 1977年
四国新聞社提供

石清尾山から眺めた郷東町

香東神社の御神楽

海・山・川に触れる今昔めぐり

A 史跡と埋立地の歴史めぐり

距離: 約5.2Km 所要時間: 約2時間

ごとうじんじゃ 香東神社 → 10 香東川渡し場跡 → 11 カイボリ → 14 金毘羅道標(オイワケ) → 16 郷東の堰 → 12 牛馬の墓 → 8 香東川鉄橋 → 9 香東神社
しおどめせき 潮止め堰 → 4 高松競馬場跡 → 3 愛国飛行場跡 → 1 弦打浜塩田跡 → 2 ひょうたん川 → 5 金剛不動明王 → 6 一本松 → 9 香東神社



香東川の呼称

香東川西岸の弦打から東岸の高松旧市街地では「ごとうがわ」と呼ばれている。檀紙から南では、「ごとうがわ」と呼んでいる。郷東町にある「ごとうじんじゃ」には「香東神社」の扁額がかかっている。明治41年ごとう橋開通式写真では、香東橋となっている。郷東はもともとは、村の名前である。



※1ページの古地図より



9 香東神社

江戸時代に播州の赤穂などからの移住者で弦打浜塩田が作られた。その塩田の神様・塩釜神社から変遷した神社で、火の神、かまど神が祀られている岩田神社の末社である。現在の社は昭和8年2月に再建された建物で神社としては珍しく塩田のあった北の方を向いている。秋の祭りには、里神楽の奉納がある。



10 香東川渡し場跡

明治25年頃までは渡し船があって、船着き場は現在の橋の南50mにあった。明治25年頃に簡単な板橋が、明治41年に、右の写真の本格的な木造橋が架けられた。次いで昭和8年に現在の幅7m(その後拡幅)の鉄筋コンクリートの橋になった。石碑には与謝蕪村の句が刻まれている。



明治25年完成の香東橋



明治41年の香東橋開通式



香東神社から
いざ出発!

次のページに続きます

